

ギャップイヤー・ボランティアの受け入れについて

(日本ボランティア学習協会)

現在、イギリスの国際ボランティア機関『Project Trust』から派遣された「ギャップ・イヤー」(Gap Year)の青年たち8名が、北海道洞爺湖町、順天中・高等学校(東京都)、一燈園(燈影学園):(京都府)、昭和女子大学(東京都)で活動を行っています。

2019年度も、2018年度に引き続き9月に8名の青年たちが来日予定です。ボランティアは、東京での2日間の事前研修の後、2020年8月までの1年間、英語教育支援や国際理解教育への支援活動を行います。

2019年度も、北海道洞爺湖町、順天中・高等学校、一燈園(燈影学園)、昭和女子大学に活動先の提供をお願いすることとしています。

この事業は、1990年に(社)日本青年奉仕協会(JYVA)によって日本で初めて受け入れが開始されたもので、現在では日本ボランティア学習協会が日本での受け入れ窓口となっています。これまでイギリスの大学入学直後の若者約150名が活動してきています。

ボランティアたちはそれぞれの受け入れ先で、二人一組で活動。活動内容は、幼稚園、小・中・高校などでの英語教育や国際理解教育支援、社会教育施設での英会話講座や異文化理解教育、さらには地域社会における非営利組織での多文化共生活動への支援など、多様なニーズに応じています。

日本ボランティア学習協会は、設立以来、日本における「ギャップ・イヤー」制度の実現化への提案を行ってきました。

イギリスの『Project Trust』によれば、若者たちの日本でのボランティア活動への関心は高いようです。この事業の普及拡大に向けて、とくに会員の皆様のご協力をお願いいたします。なお、活動現場の訪問見学も可能です。

本協会としては引き続き、2020年9月から受け入れていただく新規活動先を募集しています。受け入れ条件などの詳しいことは、興梠代表理事：昭和女子大学(koroki@swu.ac.jp)までお問い合わせください。

